

「いじめアンケート調査」の実施について

豊かな心育成課

【実施の趣旨について】

アンケートを実施することにより、いじめの早期発見・早期対応に資するため。

【「いじめアンケート調査」について】

いじめを許さない学校づくりを進めるためには、日ごろからいじめの未然防止につながる授業づくり・集団づくりを推進するとともに、いじめの早期発見・早期対応に努めることが大切である。

特に、早期発見に当たっては、日ごろからの行動観察や個別面談、生活ノートの内容などをもとに児童生徒の状況把握に努め、小さなサインを見逃すことがないよう取り組むことが大切である。

いじめの早期発見の方法として「アンケート調査」があるが、現在多くの学校で行われているアンケート調査は、生活アンケートなどに含まれる、いわゆる「いじめに特化していない」内容や自由記述によるものが多く、いじめとしての正確な回答が得難いという課題があり、その方法等を見直す必要がある。

そこで、いじめに係るより正確な回答を得るために、アンケート調査の内容や実施方法等について参考例を示す。

【実施回数・方法等について】

	児童生徒アンケート	保護者アンケート
実施対象者	全児童生徒	全保護者
実施回数	一定期間を置いて、年間3回程度	一定期間を置いて、年間3回程度
アンケートの種類と特徴	(1) 「無記名式アンケート」：いじめの認知にかかわって正確な情報を得やすいが、個人を特定できないという課題がある。 (2) 「記名式アンケート」：個人の特定はできるが、現在進行している深刻な事例ほど回答し難く、正確な情報を得難いという課題がある。 ※保護者アンケートは、原則、記名式アンケートとするが、記名に当たっては任意とする。	
実施のための留意点	(1) 「記名式アンケート」及び「無記名式アンケート」の活用については、実施効果を検証し、より効果的な運用を図るように努めることが大切である。また、各学校の実態及び状況に応じて実施するものとする。 (2) いじめアンケートの目的及び国が示すいじめの定義等を児童生徒の発達段階に応じて、分かりやすく周知する。 (3) アンケート調査は、学級（ホームルーム）活動等を活用して実施する。 (4) 調査の際は、回答者が周囲の児童生徒を意識するあまり、正確な回答を書きにくい状況がないよう、厳正な状態を確保し、全ての児童生徒が安心して回答できるよう配慮する。 [例]・児童生徒一人一人の机間を十分に取る。 ・選択肢を縦に並べるなど、レイアウトを工夫する。 (5) アンケートに日付を記入させる。 (6) 全ての児童生徒が、同じ時間内に回答できるよう留意する。 (7) アンケート用紙は、教職員が個別に回収する。 [例]・封筒に入れて回収する。 (8) 自由記述欄への回答は、児童生徒にとって精神的な負担となるため設定しないが、個別面談等において、気持ちや考えを受け止める必要がある。	(1) 入学式やPTA総会等を活用し、いじめの問題に対する学校の基本方針及びアンケート調査の目的について周知する。 (2) 個人情報を守られるように留意する。 [例]・封筒に協力依頼書、児童生徒及び保護者アンケート用紙を入れ、担任が全児童生徒に手交する。 ・アンケート用紙を封筒に入れ、封をして学校に提出させ回収する。 (3) アンケートへの回答は、家庭での様子や別紙「いじめ発見のポイント（家庭用）」を参考に記入する。 (4) 開封及び集約者は、事前に定めておく。
調査後の対応	(1) アンケートの調査結果は、速やかに校長へ報告する。 (2) アンケートの調査結果を受け、個別面談等により、早期発見・早期対応に取り組む。 (3) いじめが生起している場合 ア 教職員間で指導方針を共通理解した上で役割分担を明確にして、チームで対応する。 イ 保護者に対応策を説明し、理解を得て対応を進める。その際、個人情報の取扱いに留意し、正確な情報提供を行い、保護者の信頼を確保することに努める。 ウ 重篤な事案の場合、教育委員会へ報告するとともに、必要に応じて警察等の関係機関と連携を図る。	